

【ポスターセッション】

**大学初年次における社会福祉施設実習プログラムについて**

—実学臨床教育プログラムを受講する学生の意識から—

○ 東北福祉大学 佐藤 泰伸 (7758)

阿部 利江 (東北福祉大学・7795)、千葉 伸彦 (東北福祉大学・6188)

大学初年次教育、社会福祉施設実習、定期的な学び

**1. 研究目的**

昨今、大学入学以前に身につけておくべき基礎能力の低下が深刻化しており、大学教育課程では初年次における教育を重要視する傾向がある。本学では 11 年前より独自の実学臨床教育プログラム(以下、教育プログラムと記す)を開講し、講義や演習を通じた「理論」の学びに加え、社会福祉施設での定期的な「実習」を通して、基礎能力の向上はもとより、社会福祉分野の幅広い視野を身につけていくことを目指してきた。

これまで、この教育プログラムの紹介を行ったオープンキャンパスでは、多くの高校生が教育プログラムに関心をもち、大学入学後の早い時期から社会福祉現場での実習を行えることに大きな魅力を感じていた。大学生のボランティア活動ニーズが高まる中で、この教育プログラムを活用した社会福祉現場での体験的な学びを求める学生もいることがうかがえる。したがって、これから教育プログラムを受講する学生が、社会福祉施設実習をどのように捉えているのかを入学時の意識調査より考察し、今後の教育プログラム内容の再構築につなげていくことを目的とする。

**2. 研究の視点および方法****1) 研究の視点**

この教育プログラムは、段階的に社会福祉分野の現場で実践的な経験を積み重ね、初年次は実習施設の理解や実習先の利用者・職員とのコミュニケーションを通じた信頼関係の構築を目指してきた。そして近年、教育プログラムを履修する学生の中には、将来の希望職業を見通した実践を積み重ねる意識が高く見受けられ、社会福祉分野とは限らない職業を目指す学生も存在する。学生が何を目的にこの教育プログラムの受講を決めているのかを明らかにすることで、今後の教育指導体制を整えていくことができないかを今回の報告の視点とする。

**2) 研究の方法**

第 1 回目の教育プログラムガイダンス(平成 24 年 4 月 7 日)に、参加した 100 名の学生へ調査用紙を配布した。その中で今回の報告は、最終的に教育プログラムを受講した 54 名を対象とした。

調査内容は、①教育プログラム受講理由、②教育プログラムへの期待と不安、③教育プ

ログラムへの印象、④教育プログラムに求める学び、⑤希望する職業と取得資格、以上 5 項目から成り立っている。

調査期間は、ガイダンス実施日より 4 月 11 日(水)までの 4 日間とし、回収については学生が個別に事務窓口へ提出した。

### 3. 倫理的配慮

得られた回答は統計的に処理を行い個人が特定できないよう配慮すること、また、回答することで今後の大学生活や実学臨床教育プログラム受講評価に影響を及ぼさないことを伝え、同意を得ている。

### 4. 研究結果

#### 1) 教育プログラムへの期待

約半数(48%)が「自分を成長させられそう」という期待から履修しており、社会福祉施設の「現場を理解すること(9%)」よりか、自分の「視野を広げる(13%)」ことに高く期待していることがわかった。

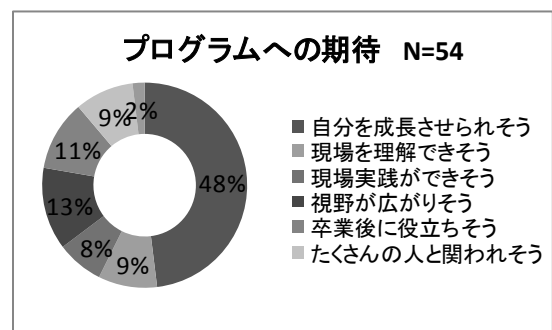


図 1. 教育プログラムの期待すること

#### 2) 教育プログラムに対する印象

大半の学生が「実践・行動力を高める(90.7%)」教育であることと考えていた。そして、「現場を理解する(64.8%)」ことも高く捉えられている。また、「専門的な知識・技術を習得(16.7%)」するものではないことを理解しており、社会福祉施設における実習を通して、自主的に学んでいくことが大切であることを認識していた。

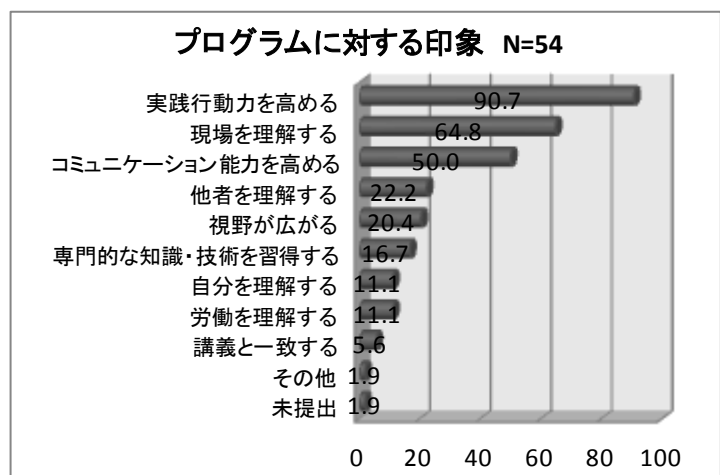


図 2. 教育プログラムに対する印象

### 5. 考察

大学初年次から行う社会福祉施設実習は、専門職として必要とされる知識や技術ばかりに捉われず、社会福祉分野のこれからの方向性を探り、小さくも刺激や発見を積み重ねていくことに重要な意味がある。そしてこの教育プログラムは、実践的な学習に意欲のある学生が、枠組みのある教育の一環として学ぶことのできるシステムであると述べたい。